



楽しい夏を安全に過ごそう



子どもたちの水遊びや花火遊びは日本の夏の風物詩です。

しかし、一方で花火による火傷や火災、海や川での水難事故が毎年発生しているのも事実です。

楽しい夏のひとときを安全に過ごすためにも、次のことに気をつけ、事故を未然に防ぎましょう。

🔥 花火の事故防止10か条

①花火の取扱説明書をよく読んで注意事項を守り、正しく取り扱いましょう。

②花火は人や家に向けたり、燃えやすい物のある場所ではしないようにしましょう。

③風の強い日は、花火をしないようにしましょう。

④必ずバケツに水を用意しましょう。

⑤遊び終わった花火は、必ずバケツの水につけて、残り火を完全に消しましょう。

⑥子どもだけでなく、大人と一緒に遊びましょう。

⑦一度にたくさんの花火を点火しないようにしましょう。

⑧正しい位置に、正しい方法で点火しましょう。

⑨吹出し、打上げなどの筒物花火は、途中で火が消えても筒をのぞくのはやめましょう。

⑩花火をほくして遊ぶのはやめましょう。



💧 水遊びでの注意

①子どもが水遊びする時は、大人と一緒に。

②危険な場所では、水遊びをしない。

③海や川では、気象情報、天候の変化に十分注意する。

水による事故が発生したら

水による事故の特徴やその予防法を知り、事故を発生させないことが何よりですが、万が一起こってしまったらどうすればよいのでしょうか。

水難事故への対処法

溺れている人がいたら

①付近に大声で助けを求めるとともに、119番通報を依頼する。

②ロープや浮き輪などを投げたり、長い棒を差し出して救助します。このとき、泳げる人でも、飛び込んで溺水者のところへ向かうのは最後の手段です。陸からの救助が基本です。

③陸に上げ安全なところまで搬送し、容態を見て、呼吸が無ければ直ちに人工呼吸を開始してください。このとき、無理に水を吐かせる必要はありません。もし、水を吐いたら顔を横に向け口の中をきれいにします。

④循環のサイン（自発呼吸、咳、体の動き）がなければ心臓マッサージ15回、人工呼吸2回を救急隊到着まで続けてください。

水による事故は、川や海、ときには浴室などでも起こります。いかなる事故でも冷静に対処することが大切です。

なお、心肺蘇生法しんぱいそせいほうや、水難事故に対する救助法などを詳しく知りたい方は、松前消防署までお問い合わせください。

楽しい夏休み。正しい知識といざというときのための技術を学び、安全に過ごしましょう。



消防豆知識

消防車はなぜ赤い？

消防車が赤色とされた理由は定かではありませんが、外国から輸入された蒸気ポンプや消防車の色が赤だったため、同じ色が使われるようになったといわれるのが一般的です。

また、色彩が人間の感覚に訴える効果もあるため、消防車を見るだけで防火意識が高まるからとも言われています。

また、外国の消防車の色をみると、フランス、イギリス、スイス、オーストラリアなどでは赤色、ドイツでは赤又は紫色、アメリカでは消防局によって色が異なり、赤、白、黄、青、黒色などを用いているようです。

問い合わせ 松前消防署 ☎984-3404